

個人13

受 令和 5年 11月 22日
付 (午前) 午後 9時 00分

一般質問 (代表・個人) 通告書

令和 5年 11月 22日

尾張旭市議会議長 殿

氏名 大島もえ

尾張旭市議会会議規則第50条第1項の規定により12月定例会において別紙のとおり質問したいので通知します。

なお、質問事項の件数及び質問方法は、下記のとおりです。

記

1 質問事項 5 件

2 質問方法

	1回目 一括質問、一括答弁 再質問以降 質問事項 (大項目) ごとに一問一答
<input checked="" type="radio"/>	1回目から 質問事項 (大項目) ごとに一問一答

↑ 選択する方法に○を付す。



質問事項 No. <u>2</u>	リトルベビー（早産・低出生体重児出産）子育てのサポートと社会への理解浸透及びプレママ・プレパパ教室の充実について
要旨	<p>多胎児出産や早産などを背景に、小さく生まれてくる赤ちゃんは10人に1人の割合です。（尾張旭市内令和4年実績では560出生数に対して2,500g以下は51名9%、1,500g以下は5名1%とのこと。以下、小さく生まれた赤ちゃんをリトルベビーと呼びます。）</p> <p>リトルベビーは正期産児との発達差があり、一般的な母子健康手帳の成長記載欄が使いにくいいため、特におおむね1,500g未満の極低出生体重児を持つ保護者のためには、県から「あいちリトルベビーハンドブック」が交付されるなど、ゆっくりとした成長発達であっても、保護者がこども自身の成長に喜びを感じ、育児不安等の解消を図ることを目的とした施策が展開されています。</p> <p>そこで、尾張旭市におけるリトルベビーの子育て等、定型発達以外のお子さんの子育てサポートについて確認・整理し、今後の方針を伺います。</p> <p>また、出生体重や発達の状況によらず、18歳成人に育て上げるまでの間、悩まない保護者はおらず、日々イレギュラーに直面するこどもの様子に対する不安はついて回ります。</p> <p>正期産や定型発達などの一般的な育児情報にとどまらず、多様な出産の状況や発達の在り方についての幅広い理解を深めることも、子育て不安と付き合い合っていくための助けになります。</p> <p>多様な出産や発達の在り方・可能性があることへの理解を深め社会への浸透を図ることで、子育てにおける「想定」の幅を広げ、不安への対応力を備えるとともに、出会いゆく多様な子育て仲間同士の理解を広げるためにもプレママ・プレパパ教室での学びの充実について提案し、今後の方針を伺います。</p> <p>(1) リトルベビー子育てのサポートや相談窓口及び支援の情報パッケージについて</p> <p>(2) 「想定」の幅を広げ、子育て不安への対応力を育むためのプレママ・プレパパ教室での学びの充実について</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項 No. <u>5</u>	市職員の人的資本経営視点による育成と労働環境について
要 旨	<p>一人一人の状況や働き方に合わせたアプローチによって、各自の能力を最大限に引き出し、人財の価値を最大化させながら活用する人的資本経営の視点から、環境整備の今後の方針について伺います。</p> <p>(1) 残業手当の発生しない管理職級職員の残業・休日出勤等労務管理について</p> <p>(2) 課長級から部長級へのステージチェンジを育む人財育成と労働環境の整備について</p> <p>(3) 育・産休取得促進に伴う労働調整による本人と周囲の双方の負担軽減とキャリアの早回し等の復帰支援や工夫について</p> <p>(4) 男女の賃金格差と雇用形態の差異及び分布とバランスへの考え方について</p> <p>(5) 多様な人財によるイノベーションを期待すべく労働環境と福利厚生の構築について</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。